



2022年2月21日発行

日本園芸療法学会事務局

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A

有限会社あゆみコーポレーション内

E-mail : office@jht-assc.jp

1. 理事長挨拶

浅野房世

寒き日が続きますが日長が延びるにつけ、春らしさが増してきます。一方では、まん延防止重点措置も継続されるようなので、今年の春はコロナとの闘いがまだまだ続きそうです。

私事ですが、1月末に孫（1.5歳）の保育園がコロナ感染によって一時閉園となりました。仕事をしている娘を助けるべく、孫の面倒を見ることになりました。わが家は、六甲山のすそ野の山林にあります。やっと歩き始めた孫の手を引き、毎日500m圏域を1時間かけて歩く、センサリー・ツアーを実施しています。

センサアリー・ツアーとは、五感を駆使する散策法です。とくに視覚障害者には良いとされています。足の裏の感触、踏みしめる音、匂い、鳥の声を感じながら、体全体をセンサーにして歩きます。対象者の自然な気付きを促進するために、ガイドは「黒子」となり静かに傍らを歩きます。

孫は落ち葉の溜まった溝の中を、ゆっくり歩きます。時には足が落ち葉に沈み、枯れ枝を踏みボキッと音を立てながら慎重に進みます。誰かが仕掛けた榎木から生まれた小さなシイタケを不思議そうに眺めます。切り株によじ登り年輪を掌で撫で、気が済むまでのその場にとどまります。わずか1.5歳ですが、感覚器を統合させて学んでいることがわかります。

このような学びをイタリアのマリア・モンテッソーリが体系立てて提唱しました。モンテッソーリ教育法です。園芸療法の勉強を始めた頃、「モンテッソーリの教育思想が園芸療法に似ている」と思ったことがありました。それもそのはず、モンテッソーリ教育の原点は障害児が感覚器を使って体得することを基本にしているからです。

ご存知かもしれませんが、アメリカではEdible Schoolyard という運動が1995年からアリス・ウォータースさんによって始まりました。学校の庭を菜園にする運動です。今では日本でも多くの学校がこの運動を提唱しています。

実はアリス・ウォータースさんもモンテッソーリ教育の指導者です。パークレーにある庭を一目見たらそれがわかります。その環境には秩序があります。使った手袋をかたづける場所、道具を並べる順番、鍋の



自然の秩序と社会の秩序の統合を学ぶ (San Francisco Edible Schoolyardにて)

洗い方や片付け方を記したポスター…。子どもたちは、そのような秩序のある空間で、自然の秩序と社会の秩序そして自分の感覚を統合させて、生きることを体得していきます。この手法は園芸療法の手法にとってもよく似ていると思います。

皆さんの臨床現場は生活秩序と自然秩序が統合されているでしょうか？私は自分の現場を思い起こし、少々反省している次第です…。



2. 日本園芸療法学会 2021 年大会の報告

(1) 開催概要

日 程：令和3年12月4日（土）・5日（日）

場 所：愛仁会看護助産専門学校（大阪府高槻市古曾部町1丁目3-33 JR高槻駅から徒歩5分）

会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催

大会長：石神洋一（特定非営利活動法人たかつき 代表理事）

大会副会長：浅野房世（日本園芸療法学会 理事長）

大会テーマ：「園芸療法の未来を拓く」

大会参加人数：195名（会場参加89名、オンライン参加106名）

プログラム：

1日目 12月4日（土）

13:15～ 基調講演Ⅰ「農福連携の広がり」と園芸療法の可能性」濱田健司氏

14:30～ 基調講演Ⅱ「自分の存在意義を自ら現場でつくる」森合音氏

16:00～ パネルディスカッション「社会の中で園芸療法をなくてはならないものにする」

進行：土橋豊（東京農業大学農学部教授）パネリスト：濱田健司、森合音、石神洋一

2日目 12月5日（日）

9:00～ 口述発表-A（8題）、口述発表-B（4題）

12:00～ 現場で生きるワークショップ

①NPO法人たかつき晴耕雨読舎現場紹介

②「植木鉢に描くアナログ画」講師：田中春代（デイサービスセンター晴耕雨読舎・臨床美術士）

③「ビオバ・プランターを育てるからはじまる創作活動の提案」講師：長崎美香（Roles 晴耕雨読舎南平台）

13:00～ 園芸療法未来会議

【第1部】各地域ブロック（7ブロック）代表者による地域ブロック会議についての発表

【第2部】園芸療法 未来へのシンポジウム

コーディネーター：吉長成恭（日本園芸福祉普及協会理事長）

座長：浅野房世（日本園芸療法学会理事長）

シンポジスト：地域ブロック代表者7名、石神洋一

【第3部】園芸療法 未来への提言

(2) 基調講演Ⅰ「農福連携の広がり」と園芸療法の可能性」

濱田 健司 先生（JA 共済総合研究所 主席研究員）を聴講して

剣持 卓也（社会医療法人北斗 十勝自立支援センター 介護老人保健施設かけはし）

「農福連携」という言葉からは、担い手不足に悩まされている農業従事者のニーズと就労の機会や現場を求める障がい者や福祉事業者のニーズとをマッチさせた取り組みを思い浮かべる方が多いだろう。「農福連携」という言葉の生みの親で JA 共済総合研究所主席研究員を務められている濱田健司氏は本講演において、「農福連

携」の背景となる考え方やいくつかのモデルを提示した上で、冒頭に述べたような取り組みは狭義の「農福連携」であるとしている。

本講演のタイトルにもあるように、今回のテーマは「農福連携の広がり」であり、これまで主な対象となってきた身体・知的・精神障がいのある方だけではなく、要介護高齢者や介護予防の必要な高齢者、生活困窮者やひきこもり、難病患者、シングルマザーなど、働くための困難を抱えるひとたちをも対象とすること、そして、取り組む内容も野菜や花、加工品を生産して販売することだけではなく、収益よりも健康づくりや生きがいがづくり、社会参加等を目的とした「ゆるやか農業」、癒しやレクリエーション、治療を目的とする「農的活動」へと大きく広がっていることを紹介された。

このように拡大した「農福連携等」の取り組みは厚生労働省や農林水産省等の各省庁においても予算化され、全国にその取り組みが広がりつつある。いくつもの現場を見て回り、「農」のもつ力が「福祉」に効果をもたらすことを強く信じて各省庁に働きかけ続け、うねりを作り上げつつある濱田氏の熱意と行動力に敬意を表するとともに、このうねりの中で園芸療法や園芸療法士はどのような役割を持ち得るのか、大きな課題を頂いたような思いでいる。

(3) 基調講演Ⅱ「自分の存在意義を自ら現場でつくる～ひとり専門家としてなくてはならない存在になる～」

森 合音 先生（四国こどもとおとなの医療センター 専属アートディレクター）

果敢に、孤高に、優しく、しなやかに、自身の仕事のあるべき位置を築きあげた森合音先生の感動的な1時間半にわたるお話でした。詳細は学会誌14号（2022年3月末発行予定）に全文掲載します。学会に参加された方も、参加されなかった方も、先生の生き方を文字で再認識してください。

3. 総会書面決議

コロナ禍の中、2021年大会総会はハイブリッド開催という運営上の都合により行うことが出来ず、書面決議による総会となりました。学会事務局より資料および書面議決書（ハガキ）を返信締切2月8日にて郵送しました。その結果、正会員202名の内70名からの返信があり、日本園芸療法学会会則第21条の規定に定める1/5以上であり、議案は議決されました。

4. 人間・植物関係学会、日本園芸療法学会 2022年度合同大会の開催

【大会概要】

日 程：令和4年11月12日（土）、13日（日）

場 所：兵庫県立淡路景観園芸学校 多目的ホール他

大会長：豊田正博（兵庫県立大学／兵庫県立淡路景観園芸学校教授、日本園芸療法学会理事）

大会副会長：札幌高志（兵庫県立大学／兵庫県立淡路景観園芸学校准教授、人間・植物関係学会理事）

大会テーマ：「自然を愛するところ、園芸療法のところ」

その他：口頭（口述）発表、ポスター発表に加えて、グループ活動等の発信ブースを設置予定

5. 第17回園芸療法士認定試験の実施について

資格審査委員長

下記の通り実施予定です。（願書受付は締め切りました）

日程：2022年2月27日（日）

場所：IMY（アイエムワイ）ビル imy 会議室5F（名古屋市）

1次試験（筆記）10時～

2次試験（面接）午後より順次

事務局からのお願い

【所属先・住所等の変更について】

引っ越しや転勤などで所属先・自宅住所に変更が生じた場合、特に、2022年3月で卒業される学生会員の皆様は、新所属先または新住所について、必ず事務局 (office@jht-assc.jp) までご連絡願います。

【年会費や投稿料の振込みについて】

年会費口座、大会口座、資格審査口座は、すべて別口座です。入金確認後に各種事務作業を行いますので、振込み際にはお間違えにならないように、お願いします。入金確認ができない場合、事務作業が遅滞しますので、ご留意願います。また、論文投稿料も誤振込が増えております。投稿前に必ずホームページまたは最新の学会誌で投稿料をご確認のうえ、振込用紙には投稿種別と金額内訳を明記ください。